

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、事業所としてつくりあげている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員会議の場で、職員に提示し、念頭におくようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族については、通知や口頭で理解していただき、地域の方々についても、週一回の町内会集會に参加し、パンフレットや意見交換の場を設けて、理解を深めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域活動、老人会、行事等へ参加し、地元の方を対象に必要に応じて相談業務を行い、地域に貢献できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価に対しては会議を通じて周知し、できる部分から改善する努力をしている。		評価、指摘事項について、全てを改善するにあたっては、経営者を協議し、対応していきたい。
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は、現状で2ヶ月に1度の開催はできておらず、入居者に関する状況やサービスの紹介に		外部評価の結果等をもとに、2ヶ月に1度開催し、サービス向上に活かしたい。
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者に会議への参加要請は行っているが、なかなか都合がつかずに参加していただけていないのが現状です。市役所からの問い合わせや運営状況の報告時には積極的に情報提供を行い、検討しながらサービスの質の向上が促されるよう努力している。		今後も運営推進会議への参加要請し、必要なアドバイスを仰いでいきたい。
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	行っていない。		今後、制度を利用する可能性があり、職場内外の研修に参加し、学ぶ機会を持ちたい。
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	行っていない。		虐待防止に関する研修等の参加を通して学ぶ機会を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約等に関する説明要請があった場合には、その都度行っている。		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者や職員は、利用者の意見、不満、苦情を受け付け、カンファレンスを通じて、解決されるよう取り組んでいる。		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、定期的に面会される家族に対しては、その都度、近況報告と金銭管理についての報告を行い、その他の家族に関しては、電話や家族の都合により要請があれば、訪問により報告している。		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	特に機会は設けていないが、その都度、意見や苦情は受け入れる体制があり、職員に周知し運営に反映させている。		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一度の職員会議があり、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者、看護師、介護リーダーは利用者や家族の要望に柔軟に対応できる体制にあり、また、勤務調整を行うことで、適切な人員確保はなされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本人の都合によりやむをえず離職する場合もあるが、基本的に職員が代わる場合については、離職される職員が在職されているうちに、それに代わる職員を確保できるよう努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任職員については、研修を兼ねて職員と重複させた勤務体制を取っている。研修についての照会があった場合には、各職員に参加するよう努めている。</p>		
18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者については、他施設や居宅等の訪問時に情報交換を行い、互いのサービスが向上されるよう努めている。</p>		職員についても交換研修等の機会を設けたい。
19	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疑問や悩み事について、個々に相談する機会を設けている。また、職員相互の親睦を深める機会を設けている。</p>		
20	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員の努力や実績を把握しており、研修の機会や手当の支給により、向上心をもって働けるようにしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅介護支援事業者を通じて相談がある場合が多く、直接ホームに来ていただき、不安なこと困っていることなど、その都度親身に受け止めている。必要に応じて在宅を訪問している。	
22	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談時、多くは家庭の事情で入所を優先とした相談が多いが、必要に応じて通所介護や訪問介護等の情報を含めて、相談援助を行っている。	
23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報をもとに、職員会議を開催しより良いサービスが提供できるよう支援している。職員が間に入り入居者同士が積極的に交流できるよう支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中から昔の生活や趣味、嗜好などを読み取り、本人の役割を把握した上で、その人なりの生活が営まれ、そこに職員が共存し、一つの家族が形成されるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人を含め家族との対話を重視し、相談や要望を親身に受け止め支援している。		
26	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に本人の近況報告を行い、現状を知っていただくと共に、月に一度の面会を通して本人と家族との関係がより良い関係が保たれるよう支援している。		
27	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み人との係わり合いについては、家族にも協力していただき、関係が途切れないよう支援している。馴染みの場所については、家族または職員が同行し、その場所がその人にとっていつまでも思い出深い場所であり続けるよう支援している。		
28	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その都度、状況に応じて職員が仲介に入り、当事者や他入居者の不安や不満、ストレス解消されるよう支援している。		
29	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	どのような理由であれ、契約終了した場合であっても、本人、家族に対しては退去後も、いつでも来所していただき継続的に相談等の支援はすることは、退去時に予め家族に話している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
１．一人ひとりの把握			
30 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞くようしている。それが困難な場合には家族の意向も聞きながら、本人の希望に沿うように支援している。		
31 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族通じて本人の生活歴や暮らし方を聞き、また、これまでのサービス利用の経過についても家族やサービス事業所等に問い合わせるなど、スムーズなサービス提供できるよう努めている。知りえた情報についても職員会議等の開催により全職員に共通理解されるよう周知している。		
32 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者は自分のペースで生活をしており、職員が危険のないよう見守っている。また、入居者の状況の変化や現状の把握の為、個人の記録表を活用し職員全員が把握できるよう努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的(月1回)に開催されるカンファレンスを通じて、職員全員に意見を求め、ケアプランを作成している。家族や必要な関係者にも意見をいただき、ケアプランに反映しその人らしさが失われないようなケアプランを作成するよう努めている。		
34 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、半年以内に見直ししている。また、入居者に変化が生じた場合には、その都度計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	入居者個別のケース記録があり、日常生活における様子や変化を日々記録している。介護計画については、ケース記録とは別に介護計画の記載により、モニタリングの手法としている。また、職員は日誌、ケース記録を見る習慣がついている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	多機能性という点については、施設の構成上、十分なサービスはできていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	現在は地域住民と交流しながら、ボランティア活動に参加していただけるよう働きかけている。その他の機関についても参加していただけるよう働きかけていく。		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	本人や家族から要請があった場合には、必要に応じて速やかに活用できるよう支援している。		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	必要性に応じて、相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受信していた医療機関を引き続き利用している。また、受信のみではなく、健康状態の維持、管理、治療の場合にかかりつけ医の指示を仰ぎ、健康維持に努めている。		
41	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	総合病院と契約を結んでおり、精神神経科医師に受診、また、その都度、相談したり治療を受けられる体制となっている。		
42	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護師が健康管理にあたり、医療活用窓口となっている。ホーム全般の健康管理、医療にかかわることは当ホームの看護師と連携し健康維持に努めている。		
43	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には、面会を密にし、入院先の看護師との情報交換に努めるようにしている。		
44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の対応をする為の設備は整っておらず、重度化した場合には、家族と相談し重度化に対して設備が整っている施設等の紹介を行っている。		今後、当ホームでも終末期についての対応を検討していきたい。
45	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化については、できることがほとんどなく今後の課題として考えていきたい。		今後、当ホームでも終末期についての対応を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、そうした事例がないが、入居者のダメージを考慮し、そのようにしたい。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が互いに注意しあっている。個人情報等の記録については、別室のロッカーに保管している。		
48	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入所者の訴えや問いかけに対して、職員一人ひとりが耳を傾け、わかりやすい言葉がけで職員がしっかりと理解した上で、入居者のやる気が引き出されるよう支援している。		
49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動は特に規制せず、危険のないよう見守りながら、入居者は自由に自分のペースで生活が送れるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に一度、地区の理容店が来所し、カットやパーマを好みに合わせて対応している。昔からの馴染みの店に行く場合には、家族の協力にて実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に調理をしたり、入居者の昔ながらの知恵を生かしながら、おいしい物を作り出している。また、入居者と同じテーブルで食事することで、楽しい雰囲気でのびのびと暮らしている。		美味しく食事が出来るよう、食前に口の体操等の取り入れを検討している。
52	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に配慮した物を提供しようと考えているが、家族の要望や医師の指示もあり、必ずしも満足される内容とは、必ずしも言えない。		特別な日を設け、その日だけは好みの物が自由に食べられるよう、家族や医師に了承を得られるよう働きかけたいと考えている。
53	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を把握した上で、個別にトイレ誘導やおむつ交換の時間を設けて対応している。状況の変化に応じてカンファレンスを開催し、快適な排泄が続けられるよう支援している。		
54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて入浴はできるようになっている。歩行困難者に対してはシャワーチェア、リフト浴を活用し安全に安心して入浴していただいている。時間帯は概ね2時間を設定し、ゆったりと入浴できるようになっている。		
55	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠、休息パターンを把握することで、十分な休息が確保されている。長い生活の中で体調を崩し、パターンが乱れ十分な休息が得られない方には、医療機関を受診して、適切な指示の下、改善されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報提供と、日々の会話の中からその方の役割や生活感を把握し、その人らしさが損なわれないよう支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症の程度にもよるが、お金の自己管理については特に規制はなく、家族が手渡す際には持参金の把握目的で、事前に報告していただいている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>冬期間を除き、天候の良い日には近隣の散歩を行ったり、ホーム敷地内を利用して、おやつを食べたり周囲の景色を楽しみながら気分転換を図っている。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個々の状態にあった移動手段を利用した外出となる為、当ホームに配置されている介護機器や移動車に制限があり、思うように出来ていないのが現状であるが、その場合には家族に協力を要請し、家族同行にて外出する場合はある。行事等では遠方のドライブを企画し、数少ないが実施している。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があった場合には、その都度対応している。手紙の希望があった場合は、状態に応じて代筆にて対応している。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>殆どの家族の方は定期的に来所し楽しく時間を過ごされています。持参したお菓子等を一緒に楽しんだり、その際にはお茶や椅子を準備しゆっくりと対話ができるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>禁止条項については、全職員にカンファレンスを通じて、身体拘束を行わないケアをしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけないよう所在確認表等を活用し、取組み見守っている。		
64	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の方は日中殆どがホールリビングで寛いでいる為、観察は可能ある。夜間も定時の巡回とプライバシーに配慮した観察により対応している。		
65	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬については看護師が責任を持って保管し、洗剤や刃物については調理室の保管場所に鍵を付け保管している。		
66	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防士や看護師といった専門家に指導をいただき、個別に想定される事故等を予想し、事前に対応できる体制を取れるよう取り組んでいる。		
67	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師、看護師より急変時の対応について指導をいただいている。		今後、急変時マニュアルの作成を検討している。
68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	避難訓練を実施している為、その際、消防署の方より災害時の対応について助言を仰いでいる。地区の方々には集会参加時に、改めて災害の際の協力についてお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個別に想定されるリスクについて、その都度家族に説明し納得していただくと共に、その後の対応についても家族を交えて話し合っている。必要に応じて、職員会議で取り上げ検討し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の日々の状態を記録し、変化があった場合には速やかに看護師に報告、指示を仰ぎながら状態の悪化を防止し、健全な状態で生活が営まれるよう支援している。		
71	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については看護師が管理、把握している為、必要に応じて情報提供してもらい、目的、用法、用量と考えられる副作用等の助言を職員会議を開催し、職員全員に周知し、その後、共通の認識の下支援している。		
72	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別の排便記録を活用し、看護師と連携しながら、その都度便秘の原因、及ぼす影響を検討し、その人なりの改善方法を見出しながら、スムーズな排泄が促されるよう支援している。		個々の状態を加味し、薬物だけに頼るのではなく、散歩等の運動療法により体内の働きが活発となり、自然に排泄が促されるよう支援できないのかを検討している。
73	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で歯磨きを行える方には声掛けにて促し、それ以外の方に対しては、毎食後に義歯洗浄を行い、夕食後には全入居者対象に消毒することで、口腔内の清潔が保たれている。		
74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーについては専門家がいないので、適切なカロリー管理は難しいが、摂取量は記録に残すことで職員の摂取状態把握と医師への報告に活用している。しかし、医療面でカロリーコントロールや、食事摂取に何かしらの医師の指導がある方に関しては、医師を通じて病院の栄養師から支持を仰ぎ安定した栄養確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	MRSA、疥癬についてのマニュアルは以前から作成されている。又、ノロウイルスについてのマニュアルも完成し、看護師を通じて職員に励行されている。インフルエンザ等については、時期になると独自に湿度管理やマスク等の着用を指示し予防に努めている。		
76	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫等の台所機器については、定期的に消毒を行うほか、常時使用する食器やおしぼり等についてはその都度消毒している。食材についても、不定期ではあるが二週間程度を目安に食材を購入し、早めの調理により、安全に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に設置されているカーポートについては、地域の方から入りづらいとの指摘があったが、入居者の利便性について地域の方には理解していただき、天候に左右されずに安心して利用されている。		
78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテン、レースのカーテンを設置することで天候に応じて調整し、不快感を与えないよう配慮している。季節感を感じられるよう飾り付けを工夫している。		
79	共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室コーナー、ソファを個々が思い思いに活用し気の会った者同士が、対話したり横になり休まれるなど、自由に過ごされている。食事用テーブルの位置を定期的に替えることで空間のマンネリ化を予防し、快適に過ごしていただく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談しながら、不定期ではあるが部屋の模様替えを行ったり、本人が使い慣れた物があれば、持参してもらうよう配慮している。		
81	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い時には、起床後、全居室の窓を開け換気したり、温度計を設置することで、適切な温度、湿度管理を行い快適に生活していただくよう配慮している。24時間の換気ができる設備がある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内随所に手すりがあり、トイレについてもその人の状態に応じてトイレを使用している。		
83	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症ではあるが、やさしい声掛けや言葉を工夫し混乱等を予防し、能力に応じて持てる力を引き出せるよう対応している。		
84	建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上、入居者が楽しむ状況ではないが、廊下を利用して自ら歩行訓練を行ったり、和室コーナーでは洗濯たたみを行うなど、職員と入居者が共に作業を行う場として十分に活用されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・初めての取り組みとして、雪解けを待ち小さいながら農園を開こうと計画し、日常的に農園を訪れ草取りなどの手入れを職員と一緒にいくことでストレスの解消を図り、毎日の生活に生きがいを感じられ、自分たちが食べる物は自分で収穫することの楽しさを感じていただき、昔ながらの光景を思い出しその中から自分の役割を見出していただくことを目的としている。昨年、食事形態についてテーブルオードブル方式で取り組んできたが、入居者の重度化とテーブルオードブル方式に対して親しみが薄いのか、あまり浸透せずに途中から個別配膳方式にかえて取り組んでいる。個々の食事摂取量を把握した上で、個々にあった量や食器を工夫して、無理なく楽しんで食事できるよう支援している。最近では月一回の地域の老人会の集会に参加することで、身近な関係が築かれつつあり、今後、行事等の際には気軽に参加していただき、地域密着型の施設の一つとして重要な役割を果たすことができるよう努めていく。